県産ウナギ 食べ方多彩に

フジ物産（静岡市） 高知市に新型店

40年以上前に遠洋マグロ漁の飼料販売を機に高知県に進出し、県内で養鰻（ようまん）などを手掛けているフジ物産（本社・静岡市、山崎伊佐子社長）が、高知市内にウナギ料理の新型店をオープンさせた。県産ウナギの新しい食べ方を高知から提案していくという。（浅田美由紀）

養鰻から外食 県内で一貫

1957年に静岡県で石油製品販売を始めた同社は、遠洋マグロ漁船への燃料販売から舗専門店「せいろ」が4年前にグループ会社となり、本県で生産から問屋、加工、直営まで一貫して取り組む形になった。県内で35人を雇用している。

はりまや橋小学校東側にできた新スタイルの店は、その名も「Unagi Dining」という、選択。」。山崎社長自身が活鰻部門の子会社社長として本県でてこ入れした経験もあり、高知のウナギに「思い入れがある」と力を込める。

自社のウナギ職人に加え、大阪市内のホテルの和食料理人を料理長としてヘッドハンティングした。うな重、うな丼だけでなく、野菜などウナギ以外の県産素材も使ったコース料理などもメニューに加え、さまざまな食べ方を提案している。

「蒸しを入れる静岡より、炭火でかりっと焼き上げる高知のウナギが大好き。ウナギ本来のおいしさをもっと知ってもらいたい」と山崎社長。「高知で評価してもらい、いずれ東京、ニューヨークへ出店しようと考えている」と話している。

マグロ用飼料販売へ参入。遠洋マグロ漁が盛んだった本県にも73年に支店を設けた。

当時はマグロ飼料となるイワシを養鰻にも使っていたことから、県内の養鰻場が取引先となり、その流れで活鰻・養鰻事業も手掛けるようになった。

現在は、高知市春野町の4カ所の池でウナギ約93トンを養殖し、香南市吉川町の自社加工場で焼き上げたかば焼きを全国に販売。取引先だった高知市内の老

「県産ウナギの良さを高知から広げていきたい」と話す山崎伊佐子社長（高知市桜井町1丁目）

四銀 証券会社と提携

商品仲介 〝四国連携〟の一環

四国銀行は、伊予銀行の証券子会社、いよぎん証券（松山市）と金融商品仲介業務で提携し、28日から同社商品を取り扱う。同行を含めた四国の地銀4行による包括提携「四国アライアンス」の取り組みの一環。

取扱商品は、外貨建て債券と仕組債で、本店の個人サポート部で対応する。四銀は「高品質の金融サービスを提供し、金融資産の形成に貢献したい」としている。

四国アライアンスは4月初めに主要施策を発表。4行で唯一の証券子会社であるいよぎん証券の共同活用も盛り込んでいた。伊予銀と四銀を除く2行も28日から同社商品の取り扱いを始めるという。（小笠原敏浩）

四電 純益113億円

3期連続黒字 伊方再稼働で燃料費減

3月期

【高松支社】四国電力が27日発表した2017年3月期連結決算は、純利益が前期比1・8％増の113億4900万円となり、3期連続の黒字だった。伊方原発3号機（愛媛県伊方町）が昨年8月に再稼働したことに伴い、火力発電用の燃料費削減や供給余力の他社への販売による増収が黒字確保につながった。

販売電力量は10・5％増の304億600万㌔時で、うち他社販売は166・1％増の47億1千万㌔時。

の減価償却費増41億円などの負担増があり、経常利益は27・5％減の159億2400万円だった。

ただ、会計制度の変更による渇水準備金引き当ての減少などで最終的には増益となった。1株当たりの配当は20円で前期と同額。

18年3月期の業績予想では、退職給付に関する人件費の減少などを考慮し、売上高7100億円（17年3月期比3・7％増）、経常利益250億円（57・0％

電気料金メニューを出す中でお客さまにメリットを提供したい」と述べた。

また、同日の取締役会で長井啓介常務が副社長に昇格。新たな常務取締役に白井久司氏と真鍋信彦氏が就任し、社外取締役に渡辺智樹氏（百十四銀行会長）が新任する役員人事を内定した。溝渕俊寛常務、末沢等常務、河合幹夫常任監査役は

コンビニ低価格競争激化

ど家計の負担増を受け、イオンは昨年秋から低価格路線を強化し

関電 賃金カ